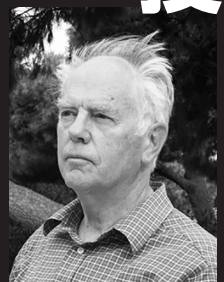


Wade Allison ウェード・アリソン

オックスフォード大学名誉教授 からのメッセージ



「放射線の正しい知識を普及する会」のメンバー各位に対し、原子力技術の適切かつ合理的な見解を日本で構築していく活動にお礼を申し上げたく、この一文を認めております。ご計画中の十二月の国際会議はその方向での重要なステップであろうと考えますし又、同会議の一翼を担わせていただく機会に感謝いたします。

日本のみなさんにとって、この問題は日本特有の問題のように見えるかもしれませんが、その見方には同意いたしません。原子力や放射線に関する如何なることにも、一般的な誤解が社会に存在し、それは世界的な現象です。

しかし焦点は日本に当てられており、世界は日本が原子力に自信を取り戻していくことに、依然として最も大きな関心を寄せています。

「放射線の正しい知識を普及する会」(SRI) 及び日本社会には、従って果たすべき特別な役割があります。

世界の多くの人々が気候変動を懸念し、稼働していない日本の原発の再稼働とその代替化石燃料の燃焼をストップさせることに重大な関心を寄せています。それが実現すれば、合理的な対応を止めてしまったドイツなどの国々を説得する好機も得られるでしょう。

「我々」は、既得権益を持たずあなた方の活動を強く共鳴する人々のグループについて触れます。SARI (Scientists for Accurate Radiation Information 正確な放射線情報のための科学者の会) グループは国際的な医学・科学の専門家グループであり、そのメンバーはイギリス、アメリカ、ポーランド、カナダ、イスラエル、ドイツ、その他様々な国からの個人です (<http://radiationeffectsfrom.com> 参照。ここを開くと、メンバーの氏名等の情報が得られます)。より学術的或いは技術的な類似のグループが存在し、オーストラリアのような特異な国に本拠を置いてるものもあります。又、多くの

機会に日本を訪問し講演を行ったジェリー・トーマス王立大学教授 (Professor Gerry Thomas of Imperial College) を含む傑出した人物がいます。あなた方の十二月の会議に彼女が参加すると聞き、嬉しく思います。

映画「バンドラの約束」を制作した強力な環境保護主義者グループについても言及しなければなりません。彼らの殆どは科学者ではありませんが、この問題は科学的なものである以上に教育的且つ社会的な問題であることを理解しています。

福島県の住民や原発労働者が経験したように、低・中線量率の放射線は有害ではなく、このことは既に事故後数日の内に明らかでした。 (<http://www.bbc.co.uk/news/world-12860842>) 「我々は放射線から逃げるのを止めるべき」(二〇一一年三月二十六日更新)。社会における多くの問題同様、放射線についての疑問は、理解と信頼の問題であって、技術

的困難ではありません (<http://vimeo.com/97112852>)

しかし大変残念なことに、国際的な委員会を含めて、学問の再確認や自信を得た教育というメッセージによって、自分たちの地位や権威に疑問符が付けられると感じる人々が存在します。SARIはこういったメッセージに関わっていません。

私は個人的に最近の研究を孫たちのために捧げています。孫たち及び日本その他の地域の同世代の人間が、我々が後に残すものを受け継いでいくでしょうから。 (<http://www.radiationandreason.com> 筆者の著書『Radiation and Reason (放射能と理性)』を紹介)。

既に和訳版が出版されている著書『Radiation and Reason』(『放射能と理性』(徳間書店) に追加すべく、現在、別の本を執筆中であり、十二月の大切な会議には間に合わないでしょうが、この本も又、翻訳されることを希望します。

S.A.R.I. (Scientist for Accurate Radiation Information)

設立宣言、使命

2014年1月22日

設立宣言

このグループの目的は、生命の救助のために、原子力/放射線の世界における問題対応力に敵対的な影響を与えかねない原子力/放射線に関する誤った情報を調査し、それに対抗することである。

放射線或いは原子力の緊急事態に世界が効果的に備え且つ対応するためには、電離放射線の高線量及び低線量の人間に対するリスクに関する信頼に足る情報、そして人体の一般的な反応は高線量と低線量とは異なるという情報、が重要である。放射線の人体への影響に関する誤った情報は、不幸なことにニュース報道や他のメディア報道によって広まっている。特に現在の福島での風下の人々のケースのように、低レベル放射線（低線量且つ低線量率）による影響に関する報道である。誤った情報は、それが早急に発見されず且つ信頼できる情報による適切な反論が時機を逸することなく行われなければ、チェルノブイリや福島の事故後に証明されたように、多数の生命の予想外の損失を含む損害へと繋がりがねない。低水準の放射線被曝に関連する誤った情報は予想外の災害（*）に導く。このグループは、学際的で次の分野で専門性を持つ。放射線源特性特定、放射能輸送、放射線の内部・外部線量測定、放射線の生物学的効果（有害、有益双方）、線量投与反応のモデル化、放射線のリスク・有益性査定、原子力/放射線学上の緊急事態管理。

*チェルノブイリ事故を受けての10万件以上の墮胎にも、そして福島の強制避難に絡んで失われた千人以上の命にも、その責任が問われる（Scott BR and Dobrzynski L. 2012. Dose-Response 10:462-466）。

任務

人騒がせなニュース報道や定期刊行物を含むその他メディアを使って拡散される放射線についての病的な恐怖を助長しようとする誤った情報に対抗策を講じることを通して、不必要な放射線恐怖に関連した死亡、罹患、放射線医学の診断上/治療上の不信と結びついた傷害、原子力/放射線医学上の緊急事態からの障害等の防止に貢献すること。

十二月の会議の際には、原子力の安全性に関して日本内外のメディアと、そして大衆とも、公開の議論の機会を数多く持ちたいと希望します。残念ながら私は日本語での話はできませんが！

しかし、40年もの教職を経て、幸運にも世界中に昔の教え子があり、私の業績を特によく知る一人が長年東京に住むジェームス・ホロー（James Hollow）で、彼は高山さんとコンタクトしています。

日本での私の更なるコンタクト先としては、英国大使館、英国商工会議所、オックスフォード大学東京事務所があり、それら全てが私への助力に熱意を持ってくれています。十二月にお会いすることを

楽しみにしています。やるべきことが沢山あります。皆様、どうぞ宜しく。